

東洋学園

東洋学園の校友をつなぐ

だより

平成
27年
Vol.4

CONTENTS

- 原田学長からのメッセージ 1
- キャンパス統合／初年次教育 2
- キャンパスライフ 3
- 教員インタビュー 4
- 社会で輝く卒業生／東洋学園の歴史 5
- 大学院 6
- 教育振興資金のお願い／入試 7
- インフォメーション 8

原田学長からのメッセージ

「学生、教職員、校友がつながる “理想のコミュニティ”を目指して」



東洋学園大学学長
原田規梭子

明治大学大学院文学研究科修士課程修了。東洋女子短期大学学長、本学の副学長を経て、2014年より現職。日本英文学会、現代演劇研究会所属。専門分野は英米の演劇。

2014年4月、東洋学園大学の学長に就任した原田規梭子先生。より良い教育の実現のために、現在取り組んでいるプロジェクトのことや校友の皆様への想いを語っていただきました。

キャンパスを東京・本郷へ統合

昨年度よりさまざまな改革を行ってきた本学ですが、2016年度の入学生より全学部と大学院を東京・本郷キャンパスへ統合し、「一体型都心キャンパス」とすることが決定いたしました。

本郷キャンパスは、東洋学園大学の前身である旧制東洋女子歯科医学専門学校が大正15年（1926年）に誕生した地です。その伝統ある古巣に全学部の学生たちが戻ってくるということは、非常に喜ばしく感慨深い出来事です。

私は学長に就任した当初から、「学びのコミュニティ」を充実させたいと考えてきました。そのためにも、3学部が一つの場所に集い、連携しながら学ぶことはとても大切だと思っています。そもそも、現在の「グローバル・コミュニケーション学部」、「現代経営学部」、「人間科学部」という3つの学部は、本学の長い歴史の中で必然的に生まれた学部であり、それぞれ親和性がとても高いと感じています。ビジネスを円滑に進めるためには心理学を知っておくと有利ですし、心理学の場にもビジネスの知識は不可欠です。そして、広くコミュニケーションを取るうえで、あらゆる分野において語学や幅広い文化の習得は欠かせません。こうした理由から、3つの学部の内容を相互に学び合える環境は、学生にとって非常に有意義だと考えています。

この「一体型都心キャンパス」は、本校を目指す学生にとっても魅力的に映るようで、今年のオープンキャンパスには1日に500名近い高校生が訪れた日もありました。

オープンキャンパスには各学部の教員も参加

し、熱意を持って高校生に説明を行っています。今年度から学生募集にも力を入れているため、教員一人ひとりが自分たちの問題として捉え、尽力しているのを感じます。私自身も保護者に向けて学校の成り立ちをお話したのですが、女性が経済的に自立できるように、という想いで大正時代に創立された学校だということをお伝えすると、みなさん「良き伝統を受け継いだ素晴らしい学校ですね」と感動してくださいました。

多彩な新プロジェクトが進行中

現在、力を入れているもう一つのプロジェクトに「初年次教育の強化」があります。本学は、「^{じきょうやまず}自彊不息」という建学の精神が示す通り、昔から自発的に学び、努力を惜しまない学生が多い学校でした。しかし、今の時代は学校側が学びの環境や仕組みを整えることも必要になってきています。

そこで、1年生のために今年度からスタートしたのが「キャリアのススメ」という選択科目です。これは、この大学で何を学びたいのか、今の自分にできること、できないことは何か？といった気づきを学生たちに与え、人生設計を考えさせる授業です。また、授業を通じて学生同士や学生と教員との絆を深め、大学を「居場所」と感じてもらうことも目的としています。さらに、校友の方々が紡いできた歴史を伝え、学生たちに自校を誇りに思ってもらいたいという想いから、授業の中で「自校教育」も実施しており、実際に受講した学生から「この学校に入ってよかった」という声も上がっています。

その他、就職活動を応援する「就職チャレンジプロジェクト（SCP）」という取り組みを前年度から導入しました。これは、さまざまな分野

で豊富な実務経験を持つ教員が学部・学科を越えて意欲的な学生の就職活動をサポートするという取り組みです。さらにキャリアセンターでは、本学の卒業生をロールモデルとして招き、話を聞く機会も設けています。学生と教職員、卒業生が一体となって活動するこうした就職支援こそ、まさに理想的なコミュニティの形だといえるでしょう。

校友の皆様とつながるために

本学を卒業された校友の皆様も、もちろん私たちのコミュニティの大切な一員です。ゆくゆくは地域の支部を作るなどして、つながりをより一層深めていけたらと考えております。その前段階として、「学びのコミュニティ」作りをはじめ、教育の充実化を目指して日々取り組んでおりますので、新たな改革の只中にある東洋学園大学をぜひ見に来ていただければと思います。今後も私たちは、校友の皆様がご子息・ご子女に「是非入学させたい」と思っただけのような学校を目指して、一步といわず半歩ずつでも、着実に改革を進めてまいります。



前学長
一ノ渡尚道
学校法人東洋学園の学事顧問に就かれていた一ノ渡尚道前学長は、2015年3月末をもってご退任され、本学への多大な功績に対し、名誉教授の称号を授与しました。

キャンパス統合／初年次教育

“学びの質”を高める改革としての キャンパス統合、初年次教育の強化

東洋学園大学では、より良い教育のために現在さまざまな改革を行っています。
その一環として、今年度から力を入れている初年次教育の詳細と
2016年度よりスタートする「一体型都心キャンパス」についてご紹介します。

本郷キャンパスを象徴する1号館壁面の「フェニックス・モザイク」は、前身である東洋女子短期大学時代に制作されたもの。



全学部と大学院を東京・本郷へ 「一体型都心キャンパス」の実現

本学では、2016年度の入学生よりすべての学部を東京・本郷キャンパスへ統合し、全学部と大学院が揃った「一体型都心キャンパス」を実現します。千葉・流山キャンパスは、2015年度までに入学した人間科学部の学生や部活動を中心に、今後も運営を継続していきます。

「一体型都心キャンパス」の採用は、学生たちの学びやコミュニケーションの拡充、就活の利便性などを考慮した上での決断であり、以下のようなメリットが期待されます。

都心という立地を活かした 学びや研究の充実

東京・本郷キャンパスは、池袋や新宿、渋谷、丸の内、秋葉原をはじめとする主要エリアからも近く、交通アクセスが抜群です。学生たちは、この都心のキャンパスに集まることで、常に最新の情報やビジネス、社会の動きに触れながら学びや研究を深めてゆくことができます。

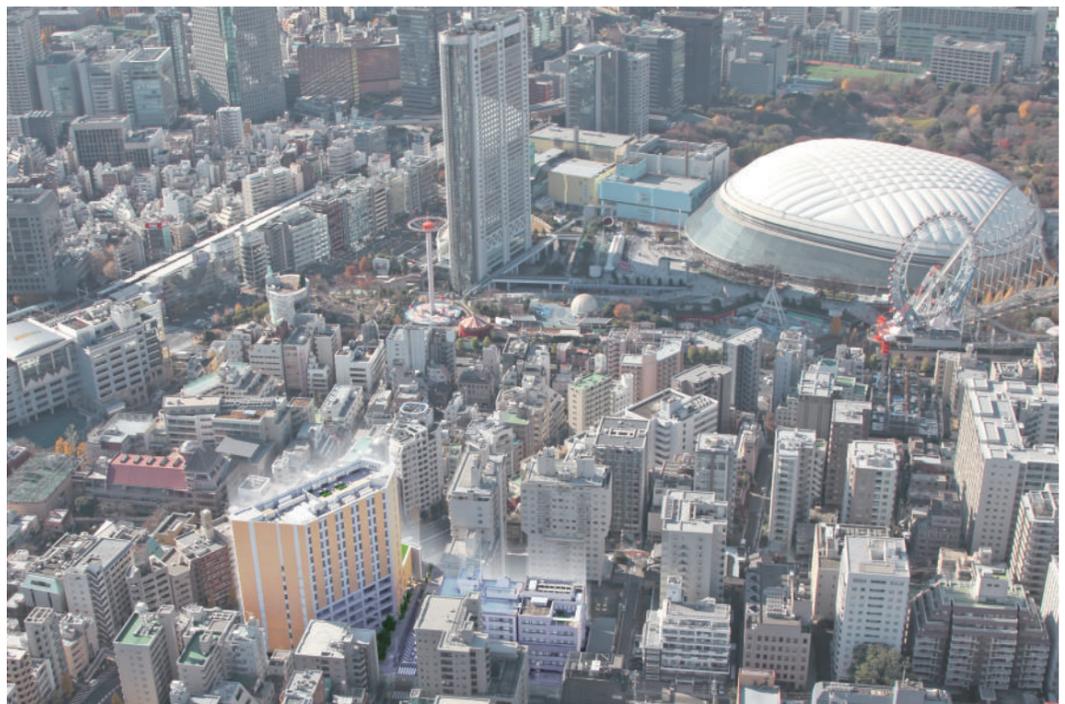
各学部の授業においても、都心という立地が役立ちます。たとえば、世界情勢や文化について現場で学ぶグローバル・コミュニケーション学部の「フィールドワーク」、実在の企業やビジネスを題材に学ぶ現代経営学部の「ケーススタディ」などは、実例が豊富な都心が適しているといえます。また、人間科学部も、見学や実習を取り入れた体験型の授業を今まで以上に設けやすくなります。

教育資源の集中によって 「学びやすさ」が一層向上

教育資源が一カ所に集中することで、全学部共通の基本教育科目を効率的に編成しやすくなります。また、他学部科目の履修もしやすくなり、学びの選択肢が広がります。さらに、全教員と学生が常に同じキャンパスで学習・研究を行うため、教員と学生、学生同士の距離が縮まるといったメリットも。事務効率も向上し、今まで以上の「面倒見のよさ」で学生たちをバックアップできるようになります。

学部・学年を越えた交流が生まれ 就活においてもアドバンテージに

キャンパス統合によって3学部4学科と大学院の学生が同じ場所で学ぶこととなり、学部・学年の枠を越えた交流の機会が生まれます。学習面や将来について先輩・後輩で話すことで、広い視野で学生生活や就職について考えられるようになるでしょう。また、都心ならではの情報の早さや交通アクセスの良さも、就活には大きなアドバンテージ。もちろん、キャリアセンターの手厚い就職支援も受けられます。



東京ドームの間近に立ち、5路線3駅にアクセス可能。まさに東京の中心に位置する本郷キャンパス。

今年度より、初年次教育として 「キャリアのススメ」を導入

今年度より、初年次教育の一環として「キャリアのススメ」がスタートしました。この授業の目的は、大きく2つ。大学生活をどのように過



「学生と教員の距離が近い」という本学の伝統を体現するように、学生たちとやり取りをする原田学長。

ごしていくかを仲間と共に考え、大学を自分の「居場所」とすること。そして、大学生活において「学ぶ意味」を見つけることです。

授業は一般的な座学ではなく、グループワークを主体とした“アクティブ・ラーニング”方式が中心。学生たちは少人数によるグループワークを通していろいろな形のコミュニケーションスタイルを学びながら、最終的に「自分」と向き合っていきます。教員のほか、「学生ファシリテーター」と呼ばれる上級生が参加し、授業をサポートするのも特徴です。

授業の内容もバラエティに富んでおり、「自校教育」をテーマにしたことも。大学の歴史を知り、先輩方の思いを知ることを通じて、大学への愛着を高めてほしいとの思いからです。この授業では、まず原田学長から本学の概要や歴

史について紹介があり、その後、東洋学園史料室課長から「自彊不息^{じきょうやすまず}」という建学の精神についての解説がありました。入学したばかりの学生たちにとって、大学の歴史には新たな発見や驚きも多かったようです。

また、あるときは本学の卒業生がゲスト講師として講演し、座談会も実施。先輩方の多彩な働き方や学生時代の過ごし方を知ることができ、学生たちには良い刺激になったようです。

このように、他者と積極的にコミュニケーションを図り、共有し合いながら、自分の今や将来について考えていくのがこの授業の醍醐味です。授業を通じて将来のキャリアを主体的にデザインすることの重要性に気づき、目的意識や目標意識を持ってチャレンジしていく学生に育ててほしいと願っています。

キャンパスライフ

学生たちの国際性、主体性を育てる プログラムやイベントが充実

本学では、2014年にスタートした「国際キャリアプログラム (ICP)」や国際交流イベントなどを通じて、真の国際人の育成に力を入れています。また、学生たちが主体的に取り組む活動を応援し、自主性を育てています。

ICP

International
Career
Program

努力を实らせた一期生が 1年間の学部留学へと出発!

2014年度からスタートした国際キャリアプログラム (以下、ICP) は、4年間の国際教養教育で「人間力」の基礎を作ると同時に、徹底した英語教育と1年間の学部留学で「コミュニケーション力」にも磨きをかけ、グローバルに活躍できる人材を育てることを目的としています。

そのICPの一期生が、今夏ついに留学先へと

出発しました。短期間で高い英語力を身につけるため、1年次からほぼすべての講義を英語で受けてきたICPの学生たち。ロールモデルとなる先輩もいない中、仲間同士で励まし合い、教職員のサポートも受けながら、ようやく留学を実現することができました。

入学当初は英語での授業に苦戦し、泣いていた彼女らも、スキルを身につけた今では自信満々の笑顔。それぞれの留学先で、さらなる成長を遂げて帰国するのが楽しみです。そんな先輩の背中を追って、新たに入学した1年生たちも留学を目指して日々がんばっています。

アメリカのオハイオ州にあるライト州立大学に留学し、経営学と経済学を学んでいます。貿易会社を経営するという夢に向けてがんばります!



佐藤寛輝さん (2年)

カリフォルニア州立大学チコ校に留学し、国際関係学や地政学を専攻しています。アメリカの視点で国際関係について学べるのが興味深いです。



森山紗稀さん (2年)

SHSU



日本文化を紹介するイベントも実施。本学の学生にとっても、自国の伝統が国際交流のきっかけになることを学ぶ機会になりました。

サマースクールを通じて アメリカの学生たちと交流

6月9日～7月1日の23日間、本学でアメリカのサム・ヒューストン州立大学 (SHSU) のサマースクールが実施されました。

サマースクールの開催は、昨年引き続き2回目。本学の学生にとっても、同年代の外国人の友人を作り、英語でのコミュニケーション力を磨く大きなチャンスになっています。

期間中は本郷キャンパスで授業を行ったほか、6月20～21日には日光へ。本学が栃木県

に所有する古民家「栃木寮」に宿泊し、本学の学生と一緒に日光東照宮や華厳の滝などの名所を巡って交流を深めました。

また、「プレ本郷祭」にも参加したほか、本学の学生が講師となって茶道や生け花、書道などのワークショップを実施し、日本文化を体験する機会も設けました。

約1カ月間のサマースクールを経て学生同士の絆も深くなったようで、最終日に開催されたさよならパーティーでは別れの寂しさに涙する学生も。両学の学生にとって、忘れがたい思い出となったようです。

学生団体の活動も盛んです!

学生祭運営局

6月28日、学園祭運営局が主催する「プレ本郷祭」が開催されました。本郷キャンパスで3学部合同の学園祭が行われるのは今回が初めて。来年度からのキャンパス統合に向けて試験的に開催されましたが、お天気にも恵まれ、在学生、教職員のほか、卒業生や近隣の方々など大勢の方にご来場いただき大盛況となりました。



硬式野球部



5年目を迎える本学の硬式野球部。今年の東京新大学野球連盟春リーグ (2部) での最終戦績は7勝3敗、2部リーグ単独2位をマークしました。3位に終わった昨年の秋季リーグから順位を一つ上げ、過去最高位となる健闘ぶり。今年の秋季リーグでは2部優勝・1部昇格を目標に、さらなる成長が期待されます。

テニス部

平成27年度関東大学テニスリーグにて、男子は3部リーグで4勝1敗の快進撃を果たし、今季2位をマーク。来年も3部残留が決定しました。一方、女子は2部残留を果たしました。

また、平成27年度全日本学生テニス選手権大会 (インカレ) 本戦では、女子シングルの植木千尋選手 (4年) がベスト16に入りました。



東洋学園大学とともに歩んできた 教員たちの今

東洋女子短期大学時代から30年以上教鞭をとってきた先生をはじめ
校友の皆様にとっては懐かしい恩師にあたる先生方にインタビュー。
思い出深いエピソードや近況、校友の方々へのメッセージなどをうかがいました。

グローバル・コミュニケーション学部

梅山 香代子教授 (1982年教員就任。専門分野：日米の比較憲法、日米交流史)

就任したのは短大の時代です。当時はまだ政治や経済の知識を持つ女性が少なく、社会での女性の地位向上のためにも教育が必要だということで、アメリカの政治に関する授業を中心に行っていました。当時はパソコンが存在せず、コピー機も手軽に使えなかったため、アメリカの大統領選挙のたびに、その結果を伝える新聞記事を白地図に書き写していました。30年以上を経て、授業のスタイルも大きく変わりました。近年は、グローバル化に伴う問題や日米関係の歴史などを授業の中心的なテーマにしています。



グローバル・コミュニケーション学部

神田 由美子教授 (1985年教員就任。専門分野：日本の近代文学、現代文学)

短大の時代に就任して、30年以上が経ちます。短大では英語英文科にいたのですが、文学に興味のある学生も多かったので、一緒に本郷の街を散策したこともあり、本郷は文豪の街で、明治・大正時代の文学の舞台にもなっており、エピソードに事欠きません。樋口一葉が使った井戸などを紹介しながら歩いたら、学生たちがとても感動してくれたのを今でも覚えています。「文学」は、身近な歴史を見直す学問でもあります。小さな発見から大きな世界を知ってもらうことを願って、今でも学生たちと一緒に本郷の街を歩いています。

グローバル・コミュニケーション学部

加藤 良則教授 (2007年教員就任。専門分野：英語教育、学校教育)

中学校教員、教育委員会、中学校校長という32年間の公務員経験を経て、9年前に入職しました。校長をしていた時代に中学生だった生徒が成長し、本学に入学してきたことも何度かあり、そのときはお互いに驚き合いました。これも教育がつなぐ縁ですね。現在は、主に基礎英語と教職関係の授業を受け持っています。近年は教職課程を履修する学生が減っていますが、実際に教職に就いた卒業生もいてうれしく思っています。卒業生には、どんな分野であっても自分が一つ「これ」と決めて目指した道を究めてほしいです。



現代経営学部・大学院現代経営研究科

鎌田 信男教授・現代経営研究科長 (1999年教員就任。専門分野：国際経済論、証券市場論)

1999年に人文学部へ入職し、さまざまな授業を受け持ちました。現在は、現代経営学部で証券投資や経済政策、経済入門などの授業を行っています。現代経営学部はまだ若い学部なので、これからが楽しみです。大学院の研究科長も務めているのですが、大学院は短大を卒業されたり、一度社会に出てから学び直すために入学される方も多くいらっしゃいます。本学のように少人数制で指導にあたる大学院は少ないと思いますので、学び直しを考えていらっしゃる校友の方は、母校で経営学修士の学位取得を目指してみたいはいかがでしょうか。

現代経営学部・大学院現代経営研究科

中井 和敏教授 (2002年教員就任。専門分野：会計学、財務分析を中心とする企業研究)

民間企業で営業・人事・経理等の業務に従事したほか、大学の非常勤講師などを経て、現代経営学部創設の2002年に就任しました。実は昨年末、1期生から連絡があり、食事に行く機会がありました。一生懸命仕事に取り組んでいる様子を知り、大変頼もしく思いました。現在の授業では、会計入門、中小企業論や管理会計などを担当しています。会計は、あらゆる職種において必要な知識なので、たとえ直接的に仕事に結びつかなくても個人の財産になります。その「個の力」を武器に、社会に出てからもがんばっていただきたいと願っています。



社会で輝く卒業生／東洋学園の歴史

社会で輝く卒業生

旧制東洋女子歯科医学専門学校

鈴木 美佐子さん



卒業後は茨城県高萩市で開業歯科医として活動している鈴木さん。その傍ら、同市、日立市などで学校歯科医を務め、茨城県歯科医師会（旧）多賀支部のお仕事もされてきました。保健衛生の分野で多年に亘る公共への功労が認められ、本年、瑞宝双光章を叙勲されました。

同級生の後押しで、日頃から謙虚な鈴木さんに強いてお願いしてご登場願いました。近年は診療をご長女に任せ、亡きご尊父が得意とされた義歯の作製に取り組んでいます。

鈴木（旧姓：谷地）美佐子（すずき・みさこ）

1948年旧制東洋女子歯科医学専卒業。入学時は富士寮（現4号館）に寄宿し、2年進級直後の東京空襲で命からがら避難。終戦前後の多難な時期に学生時代を送った。卒業後にご尊父が1923年に創設した谷地歯科医院で修行を続け、1959年に継承。現在は鈴木歯科医院院長。

東洋学園大学

園田 桃さん



卒業後は、「好奇心の赴くままに行動する！」をモットーに、得意の英語を活かして憧れだった外航客船の客室乗務員に挑戦したり、2002年FIFAワールドカップや民間企業でエスコート通訳を経験した園田さん。その後、秘書としてさまざまな会社勤務を経験する中で「コミュニケーションの奥深さ」に改めて気付き、現在はソフトバンク株式会社で総務省や消費者センターから寄せられる相談対応に従事しています。

一人一台の電話とパソコンを持つ今の時代、グローバルに発展する企業の中で、楽しみながらも誠意を持ってお客様の対応をしています。

園田 桃（そのだ・もも）

1996年人文学部英米言語学科卒業。幼い頃から海外や外国文化に興味を持ち、英語のスキルを磨くため東洋学園大学に一期生として入学。在学中はゼミ仲間とバングラデシュへのケーススタディツアーを企画するなど頻りに海外へ出かけ、世界情勢を肌で学んだ。

東洋女子短期大学

鳥羽 佐知子さん



幼い頃から絵画教室に通っていた鳥羽さん。短大への入学を機に一度は絵画から離れましたが、「子供のかわいい瞬間を描きたい」、「好きなことに悔いなく取り組みたい」と再び画業に取り組み、1989年より三軌展に出品。数々の賞を受賞し、現在は三軌会評議員としての活動のほか、千葉県八千代市の生涯学習美術講師として活躍しています。

「絵の具とキャンバスがあれば絵は一生続けられる」と、現在も年6回展覧会に出品されています。

鳥羽（旧姓：星野）佐知子（とば・さちこ）

1963年東洋女子短期大学英語科卒業。出産、育児を経て画業に取り組み、三軌会賞、損保ジャパン美術財団奨励賞などを受賞。2014年12月には日本橋のギャラリーで個展を開催。現在は八千代市にて美術講師として油彩画指導にあたる。



「遠か」（2012年制作、油彩・キャンバス）
2015年3月、画家で卒業生の鳥羽佐知子さんより作品寄贈
本郷キャンパス1号館1階ロビーに展示

東洋学園の歴史

第3回

東洋学園のいちばん長い日？

東洋学園史料室

終戦70周年に因む企画が目白押し今年8月、1967年に映画化された半藤一利原作『日本のいちばん長い日』のリメイク版が公開されました。本作品はポツダム宣言受諾を告げる玉音放送当日、1945（昭和20）年8月15日を送る政府、軍中央の動きを縦糸に、放送阻止と抗戦継続を主張する陸軍佐官グループの叛乱、宮城（きゅうじょう）事件を横糸に描く史劇です。

叛乱グループの陸軍省軍務局軍務課員・井田正孝中佐（1967年版・高橋悦史／2015年版・大場泰正）は財団法人東洋女子歯科医学専門学校（現 学校法人東洋学園）理事・井田磐楠（い



左) 井田 磐楠
野砲兵第16連隊時代
右) 本学卒業アルバム

だいわくす)の養嗣子。磐楠は日露戦争当時、野砲兵第16連隊で本学創立者・宇田尚の上官、後に貴族院議員。東洋女子歯科医学専門学校創立当初から財団協議員、後に理事を務めました。占領後、A級戦犯第三次指名で逮捕収監されました（1947年釈放）。



左) 榊原 昇造
右) 榊原 主計

井田正孝中佐は阿南惟幾陸相（67年版・三船敏郎／15年版・役所広司）の自刃を見届けます。15日朝、駆けつけた参謀本部総務課長・榊原主計（さかきばらかずえ）大佐は戦後、学校法人東洋学園常任理事・顧問。その父の榊原昇造中将も宇田尚の上官で、財）東洋女子歯

科医学専門学校協議員でした。

一方、海軍第302航空隊（厚木）の叛乱では、司令の小園安名大佐（67年版・田崎潤）が野比海軍病院に強制収容されます。身柄を横須賀海軍刑務所に移すまで責任を負った同病院精神科長・宇田俊一は宇田尚の甥、財）東洋女子歯科医学専門学校協議員、教授でした。



左) 宇田 俊一
右) 宇田 尚

東洋学園史料室は特集展「戦後70年 占領期シリーズ4」を公開（～10/30）、東邦大学・同付属中高と連携して習志野市史民プラザ大久保企画展「終戦70周年 軍郷から学都へ」の展示協力、講演を行いました。

大学院

最前線の経営学を大学院で学びませんか

東洋学園大学大学院 現代経営研究科 現代経営専攻修士課程

実践的、少人数制、フレキシブル。学びの環境が整った東洋学園大学大学院で
経営学修士の学位取得を目指してみたいかをご紹介します。

東洋学園大学大学院
現代経営研究科 研究科長
鎌田 信男



経済のグローバル化が進展するなか、産業界からは多様化した経営課題を迅速かつ的確に処理できる実務能力を備えた人材が求められています。現代経営研究科は、こうした人材育成のニーズに応えるため、2008年4月に修士課程専門の大学院として設立し、これまで25名が経営学修士号を取得、ビジネス界を中心に各界で活躍しています。

本大学院の特徴は、以下3点に集約されます。

1点目は、ケーススタディに重きをおいた実践教育であり、その好例が現代経営学部との共催による「現代経営研究会」の開催です。毎



少人数制でアットホームな雰囲気での授業

年5～6回、産業界のリーダーを招いて公開形式で講演や意見交流を行う研究会を実施しており、院生は大学院単位科目として参加。実践的な視点から経営感覚を磨いています。

2点目は、1学年定員10名に対し、修士論文指導を担当する専任教員数は今年度12名と、少人数を軸にした指導体制を貫いていることです。

最後の3点目は、仕事を持つ大学院生の希望に応じて平日18時以降や土曜日に授業を行うなど、働きながら学ぶことができる社会人応援型の教育体制を敷いていることです。また、院生に英語の上達を促すため、英語教育で長い歴史を誇る東洋学園大学学部課程の上級英語授業を、聴講できる制度も整えています。

本大学院は、学部卒業生はもとより、東洋女子短期大学卒業生にも、実務経験があれば学部教育と同等の知識とみなし、入学の門戸

を開いています。前述の「現代経営研究会」は一般に公開され、どなたでも自由に参加することが可能ですし、「大学院経営セミナー」と銘打つ大学院紹介講座も年5回程度実施しています。いずれも詳細はホームページをご参照ください。母校の大学院で、ぜひ経営学修士号取得を目指しましょう。



本学ならではのきめ細やかな指導も特徴

修了後の主な就職先の例

アディダスジャパン株式会社、みずほ証券株式会社、富士フィルム株式会社、藍澤証券株式会社、その他の民間企業やNPO法人などで活躍しています。

東洋学園大学 大学院主催オープンキャンパス 大学院経営セミナー ～大学院紹介講座～

大学院は社会に開かれた高等教育の場を目指し、経営学に関連する身近なテーマを、本学教員がわかりやすく解説する「大学院体験講座」をシリーズで開催しています。全5回のうち既に2回終了していますが、東洋女子短期大学、東洋学園大学卒業生のご参加をお待ちしています。聴講無料、予約不要、進学相談もお受けします。

場所：本郷キャンパス1号館3階1304教室 時間：13:00～15:00

第3回	2015年11月8日(日)	李 新建	グローバル化の進展と多国籍企業の国際経営 グローバル化の進展とともに、多国籍企業の経営がますます注目されます。多国籍企業はどのように理解されており、どのような課題と国際経営のアプローチがあるのでしょうか。本講座では、まずグローバル化の発展の歴史を確認し、その上でこのような多国籍企業の基本問題を検討します。
第4回	2015年12月13日(日)	福地宏之	マーケティングの組織マネジメント 市場調査に始まりマーケティング戦略の立案、製品企画、広告、営業に至るまで、市場に対応するための活動は極めて多岐に及びます。しかし、優れた市場対応を行うためには、これらの活動が一貫している必要があります。そのためにはどのようなマネジメントが必要なのでしょうか。近年のマーケティング組織研究の進展を紹介していきます。
第5回	2016年2月6日(土)	永井秀哉	コーポレート・ファイナンス(企業財務論)とコーポレート・ガバナンス(企業統治論)の響働 企業価値(将来の株主債権者へのキャッシュフローの現在価値)最大化を戦略ターゲットとするコーポレート・ファイナンス(ROE経営)の行き詰まりを打開する、企業の社会的価値の最適最大化をめざすコーポレート・ガバナンス(CSR経営)は、両者の共鳴と共創(響働)によって実現される。当日はコーポレート・ファイナンスとコーポレート・ガバナンスについて検討したい。

お問い合わせ先

大学院経営セミナー、
現代経営研究会に関するお問い合わせ

東洋学園大学総務部 TEL: 03-3811-1696

東洋学園大学教育振興資金協力のおお願い

東洋学園(旧制・東洋女子歯科医学専門学校、東洋女子短期大学、東洋学園大学)は、来年、創立90周年を迎えます。本学は、「①時代の変化に 대응する大学」、「②国際人を育てる大学」、「③面倒見のよい大学」を目指し、その実現のために教育環境の整備・充実日々努めております。

そして2016年の入学生からは、全学部を東京・本郷キャンパスへ統合し、「一体型都心キャンパス」を実現することといたしました。東京の中心という利便性に加え、教育資源を集約することで教育と研究の質が高まり、また、他学部生との交流の活性化や教職員のサポート体制も充実するなど、今まで以上に充実した学びの

環境を創出します。

本学は、規模は大きくありませんが、教員と学生の皆さんとの距離が近く、きめの細かい教育を目指しています。本学の教育方針にご賛同いただきまして、本学の向上のため、募金活動への一層のご協力を切にお願い申し上げます。

東洋学園 理事長 江澤 雄一

募金目的

- 一、キャンパス教育施設設備の充実：校舎やグラウンド等キャンパスの教育環境の整備を行い、快適で、安全な教育環境を提供します。
- 二、奨学金制度の充実：学業の奨励と経済援助を両輪として、留学時の負担軽減にも配慮して、有為な人材の育成に資するよう、心の通った奨学金制度を確立します。
- 三、教育・学術等の研究奨励、振興：教育・学術の研究奨励、海外派遣等に資する為、毎年度計画的に基金の増額を図り、効果的運用を推進します。
- 四、学生の課外活動の奨励：大学内のスポーツや文化活動を活性化し、東洋学園大学への愛校心がさらに高められるよう、全学をあげて支援します。
- 五、その他：教育研究の質的向上を図るため、ITを含めさまざまな面から施設環境の一層の充実を図ります。

募金目標額 2千万円

募集期間 平成27年7月～平成28年3月

寄付金種別

1口 1万円

※金額の多寡に関わらずありがたくお受けします。ご寄付いただいた方は大学広報誌にお名前を掲載させていただきます。寄付申込書にて、掲載の可否をお知らせください。

募集対象

在学生とそのご父母等、同窓生とそのご家族、教職員その他本学関係者

申込・送金方法

別紙寄付申込書にご記入いただき、同封の封筒にてご返送ください。送金につきましては、同封の振込用紙をご利用いただくか、クレジットカードによりお振込みください。金融機関、クレジットカード会社からの入金通知を受けた後、大学より領収書をご送付申し上げます。税務申告にご利用ください。

お問い合わせ先

学校法人 東洋学園 法人本部
〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3 TEL 03-3811-1731

東洋学園大学教育振興資金寄付者ご芳名 (敬称略・50音順)

(平成26年4月～平成27年3月までに寄付いただいた方) 秋山幸、芦川一夫、麻生正徳、天野泰男、和泉幸夫、岩崎暁生、大家由美、大野雅隆、小倉良雄、小野田秀哉、金子賢義、河原英幸、木下京美、酒井治美、関根康子、高久孝幸、高橋博子、千田佳光、遠山麻希子、鳥山照子、中澤伸幸、中原眞、新田久芳、平川みゆき、廣川孝、福田隆弘、藤土雄三郎、布施実、本郷吉岐坂太鼓代表 藤沢八洲彦、柳田きくよ、吉川一枝、渡辺尚代、一般財団法人ワンアジア財団代表理事 佐藤洋治、氏名掲載を許諾された方以外のご寄付者82名

東洋学園大学入学案内

本学では、校友の皆様卒業後も学びの場を提供し続けたいと考えております。編入学(3年次)や大学院、科目等履修制度などのキャリアアップ、リカレント教育の場を、学びの段階に応じて設けております。編入学、大学院入学に際しましては「入学金免除制度」をご用意しております。また、この「入学金免除制度」は皆様のご親族(二親等以内)が本学ご入学の際にもご利用いただけます。懐かしの学び舎が、皆様の新しい学びをサポートします。



■入学金免除制度

本学園卒業生ご本人、在学生及び本学園卒業生のご親族(二親等以内)が本学に入学の場合、入学金(300,000円)を免除する制度です。
※人数の制限はありません。

■編入学(3年次)／大学院

編入学(3年次)【2016年度】

各学部の専門分野への強い関心と学ぶ意欲を持つ方の入学を求めています。

グローバル・コミュニケーション学部(本郷キャンパス)

▶グローバル・コミュニケーション学科 ▶英語コミュニケーション学科

現代経営学部(本郷キャンパス) ▶現代経営学科

人間科学部(流山キャンパス) ▶人間科学科

※学部により就学キャンパスが異なります。

大学院

現代経営研究科(本郷キャンパス) ▶現代経営専攻

・東洋女子短期大学の卒業生に出願資格が認められる場合があります。

詳しくは入試室までお問い合わせください。

■科目等履修生制度

東洋学園大学では、大学の持つ知的財産を広く社会に還元するために、科目等履修生制度を開設しています。大学院、学部ともに、開講される授業科目について、正規の学生の教育、研究に支障のない範囲において履修が認められ、単位取得が可能です。短期大学ご在学中に、教職課程を履修されながら課程修了に単位不足の方、新たな学問に取り組みたい方など、ぜひ本制度をご活用ください。なお、大学院では大学卒業、学部では高校卒業の資格を要するなど、本制度の詳細は以下にてご確認、お問い合わせください。

お問い合わせ先 教務課

本郷キャンパス：【TEL】03-3811-1785 流山キャンパス：【TEL】04-7150-3068

お問い合わせ先

編入学、大学院入試、入学金免除制度について **入試室 0120-104-108** (フリーダイヤル) E-mail: nyushi@of.tyg.jp
受付時間：平日(月～金) 9:00-17:00 / 土曜日9:00-13:00 ※大学の定めた休日を除く

インフォメーション

卒業生に開かれた学び

東洋学園大学では「開かれた大学」を目指し、研究・教育の蓄積を皆様と広く共有するべく、研究会や公開講座を開催しています。

現代経営研究会

企業の皆様と本学教員との相互研鑽、交流を通じ、現代の経営諸問題について研究し、生きた経営ノウハウを蓄積したいと考え、2008年に大学院創設と同時に「現代経営研究会」を発足いたしました。本研究会は、無料でどなたでもご参加いただけます。詳細はHPをご覧ください。 <http://www.tyg-business.jp/>
開催場所：東洋学園大学 本郷キャンパス 1号館 2階 フェニックスホール
※講演は18:00～19:30で聴講無料。講演会の後、懇親会（年間会員無料、当日参加お一人様あたり500円）を予定しています。

11月4日（水）	講師：オリックス株式会社 シニア・チェアマン 宮内義彦氏 演題：『成長戦略とイノベーション』
11月18日（水）	講師：アサヒグループホールディングス株式会社 相談役 荻田伍氏 演題：『アサヒグループの経営戦略とそれを支えるリーダーの心構え』
12月9日（水）	講師：カルソニックカンセイ株式会社 取締役会長 中村克己氏 演題：『経営革新—中国国営企業・東風汽車での実践を通じて学んだこと—』
2016年1月20日（水）	講師：株式会社 タキズミ 代表取締役会長 瀧住寿彦氏 演題：『私のチャレンジ経営法』

公開教養講座（流山）

学内外の講師を招き、現代社会に焦点をあてたテーマで講演していただきます。
（5月～12月開催、全7回） <http://www.tyg-koukai.jp/>

11月14日（土）	講師：NHKニュースウォッチ9キャスター 河野憲治氏 演題：『世界はいま』
12月12日（土）	講師：株式会社香十天薫堂「銀座香十」特別顧問 稲坂良弘氏 演題：『香道の魅力—魅惑の世界への誘い—』

13:00～15:00、流山キャンパスにて
各回1,000円、予約不要。直接会場へお越しください。

お問い合わせ先 東洋学園大学 公開教養講座受付係
【TEL】 04-7150-3001（代）

※流山キャンパスでは、英語や中国語などの語学講座をはじめ、テニス、心理学など本学の特徴を活かした講座、絵手紙や色を使ったイメージアップセミナーなど年間100講座を超えるエクステンションプログラムを開講しています。
来年度の講座詳細については、決定次第HPにてお知らせいたします。 <http://www.tyg-ex.jp/>

学内施設利用について

図書館利用のご案内（本郷・流山）

利用登録をすれば卒業生も本学図書館を利用することができます。登録は無料。卒業を証明するもの（学位記またはそのコピー、大学からの郵便物、卒業証明書等）を図書館カウンターまでお持ちください。

【利用できるサービス】

閲覧、文献複写、貸出（図書のみ3冊まで、期間：2週間）
詳しくは図書館ホームページをご覧ください。 <http://www.lib.tyg.jp/>

史料室のご案内（本郷）

創立90周年／前身校開校100周年シリーズ
プレ企画展「昭和三年校舎と八つの寄宿舎」

11月16日～2016年4月15日 解説書 無料

【場所】 本郷キャンパス4号館6階

【開館日】 月～金 9:30～16:30

詳しくは東洋学園史料室ホームページをご覧ください。 <http://www.tyg-archives.jp/>

東洋学園大学同窓会からのお知らせ

～異動調査ご協力をお願い～

東洋学園大学同窓会からのお知らせです。すでに本会会員の皆様のお手元には本年度の会報、異動調査票（対象卒業期のみ）など一式が届いているものと存じます。異動調査につきましては、本会HP (<http://tgual.jp/>) から随時受け付けておりますので、本年度が対象となっていない皆様におかれましても、ぜひともご協力をお願いいたします。

いただきました会員情報につきましては、厳重な管理を行った上で、同窓会の主旨に基づき、本会の活動、学園、母校の発展、および在学生の後援のために活用させていただきます。

お問い合わせ先 東洋学園大学同窓会室（原則毎週木曜日）
【住所】 〒270-0161 千葉県流山市鱈ヶ崎1660 【HP】 <http://tgual.jp/>

東洋女子短期大学同窓会からのお知らせ

第8回フェニックス会は、「知っているのと役立つ年金について」と題して、10月24日（土）に東洋女子短大卒業生で、社会保険労務士の渡辺詠子氏を講師に迎えて行なわれました。当日の様子は会報第26号（2016年5月お届け予定）にてご報告いたします。

～会員の皆様へお願い～

*会報に掲載する記事を募集しています。「クラス会を開きました」「卒業後こんな活動をしています」、また「このような記事を載せてほしい」等、ぜひ皆様の声をお寄せください。

お問い合わせ先 東洋女子短期大学同窓会室（第1・第3金曜日 10:00～15:00）
【住所】 〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3 東洋学園大学内
【TEL/FAX】 03-3811-5102 【E-Mail】 dosokai@ec.tyg.jp
【HP】 <http://www.tyg.jp/graduate/>

各種証明書の発行等について

各種証明書（卒業証明書、成績証明書）の発行

所属	・大学〔人文学部〕2007年（平成19年）4月以降の卒業生 ・大学〔現代経営学部〕卒業生 ・大学院〔現代経営研究科〕修了生 ・短期大学〔英語科、英文科、英語英文科〕卒業生 ・短期大学〔専攻科〕修了生
郵送先・申込窓口	本郷キャンパス教務課 〒113-0033 文京区本郷1-26-3 東洋学園大学教務課 証明書

所属	・大学〔人文学部〕2007年（平成19年）3月以前の卒業生 ・短期大学〔欧米文化学科、英語コミュニケーション学科〕卒業生
郵送先・申込窓口	流山キャンパス教務課 〒270-0161 流山市鱈ヶ崎1660 東洋学園大学教務課 証明書

*郵送での申し込みと窓口での申し込みができます。ただし卒業キャンパス以外での発行はできません。詳細はホームページをご覧ください。

【HP】 <http://www.tyg.jp/graduate/certificate.html>

*個人情報の変更は各同窓会へご連絡ください。

校友会事務局より

お蔭様で『東洋学園だより』は今回で第4号となりました。先日、東洋学園大学の1期生から「自分の知らない新旧を交えた母校の情報があり楽しい」とのお言葉をいただきました。今後も母校の現在、過去、そして未来をお伝えしていく所存です。本誌へのご意見や感想、または校友会事務局へのご要望など、お気軽に右記の連絡先までお寄せください。また、事務局では定期的にメールマガジンを配信しています。ご登録はホームページよりお願いいたします。

【企業で活躍する卒業生の方へ】 就職活動中の学生によるOB・OG訪問を受けて入れていくださる方を募集しています。業界や企業への理解、職業観などを伝えてくださる方、就職支援に関わっていただける方は事務局までご連絡ください。

校友会事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3
東洋学園大学 本郷キャンパス1号館2階

TEL 03-3811-1072

E-MAIL koyukai-info@tyg.jp

ホームページ <http://tgblog.tyg.jp/koyukai/>